

Nihongo Network News

2002.9.13発行

No. 38

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

●平成14年度 「文化庁日本語教育大会」 に参加して

暑さもたけなわの7月31日(水)と8月1日(木)の二日間、東京世田谷区の昭和女子大学において、恒例の文化庁主催による日本語教育大会が開催されました。

一日目は、自由参加で、会場の大ホールは全国から集まった人々によってほぼ8割がたが占められました。

午後1時から「日本語教育能力の基礎について考える」をテーマに、松本茂氏（東海大学）と渡辺文夫氏（上智大学）の基調講演、引き続き「日本語に関わる人々に必要な能力について多様な観点から考える」について、池田直樹氏（声楽家）、小池保氏（アナウンサー）、三森ゆりか氏（つくば言語技術教育研究所）、清ルミ氏（常葉学園大学）に基調講演者の二氏が加わり、水谷修氏（名古屋外国語大学）の司会のもと協議が行われました。

多様な日本語に関わる人々が多様な観点から日本語について話すためには、とても時間が足りず、焦点がハッキリせず、多様な日本語の世界があることを知

らせるのが本当の目的だったのでしょうか。

二日目は、申し込みが必要でしたが、午前中2時間余、「地域日本語支援コーディネーター（以下コーディネーター）の役割—ネットワーク構築に向けて—」について、西尾瑛子氏（AJALT）の司会で、民間側から えひめJASLの宇野美登里氏、東海日本語ネットワークの米勢治子氏、行政側から（財）茨城県国際交流協会の岩本郁子氏、（財）京都国際センターの新見康之氏、大阪市の富岡恭子氏が各々発言をしました。

ほとんどの方が事例発表にとどまり、コーディネーターの役割に言及したのは米勢氏のみ。コーディネーターの位置付けさえはっきり明示されませんでした。

従ってどんなネットワークを構築するのかまで議論は及びませんでした。

午後は、「日本語の魅力と自己研鑽」「対話力」「心・身体と日本語教育」「日本語の響き—声の力」以上4つのテーマについて考えるものと、「ITの実践的活

用」、そして（いわゆる）日本語ボランティアが一番多く参加したと思われる「地域日本語支援活動と人材育成」（第5分科会）の計6つの分科会が催されました。

この第5分科会は、講師の原裕視氏（目白大学）により、概念的なコーディネーターの資質、在るべき姿が語られました。

その後、会場からの意見を求めましたが、標題に関してのやり取りがされず、地域の日本語支援についての共通認識もないまま、なかには折角遠方から泊りがけで出てきたのだから何か言って帰らないとというような一方通行的な意見がでました。（確かにそのような場は必要ですが）

また、「初めて日本語ボランティアのための分科会を用意してくれて感謝する」という声があったように、かつてしばしばあった日本語ボランティアと日本語教育専門者との日本語教育に対する認識の違いを意識しないまま意見交換をして混乱を招いていたことは、今回避けられたというメリットがありました。

最後に、一部かもしれませんが、講師的な立場で関わった方々に、この大会資料に示されているテーマ、趣旨をはっきり知らせていないのでは、との疑問が残りました。

（林川記）

1980年代に入り、日本には海外から多くの人が働きに来るようになり、さらに90年代には彼らの定住化が進む現象が生まれている。2001年末現在、160万を超える外国籍市民が日本に居住する一方で、いわゆる超過滞在者は23万人弱、さらに密入国者など正規の入国手続きによらない入国・滞業者が、10万超といわれている。どこでも人口の1%以上が外国籍市民となっている。ちなみに大田区の人口は67万人、外国人登録者は1万5千前後で、朝鮮・韓国、中国、フィリピン、ドイツ、アメリカ出身者が多い。

このような中、OCNetは92年10月に設立され、まもなく10周年を迎える。当初より、地域に架け橋をつくるを活動の方針とし、生活・労働相談、日本語教室、交流イベントや学習会などの実施を活動の柱としてきた。現在、さまざまな年代のスタッフが90名前後、男性より女性の比率がかなり高いが、毎日の活動に追われている。

OCNetの活動のうち、生活・労働相談には通訳を含めて10名ほどのスタッフが水曜日・金曜日の午後および、月曜日、水曜日、木曜日の夜間に実施している。電話よりも、面談による相談を重視している。年間400～500件の相談が寄せられているが、最近では年間3万組を数える国際結婚だけでなく、離婚の相談や、子どもの教育をめぐる相談が多くなっている。留学生・就学生では日本語能力のアップ、進学先の相談などが多い。

日本語教室は月曜日、水曜日、木曜日（蓮沼、矢口東小学校教室）の夜間、金曜日（山王教室）の午前、午後が開講される。中級までのレベルに合わせて大体15クラス、100名前後の人々が学んでいる。ボランティア講師35～40名がクラスで学習の手伝いにあたっている。

OCNet日本語教室のセールスポイントはいつでも受け入れ、レベルに応じたクラス編成にあ

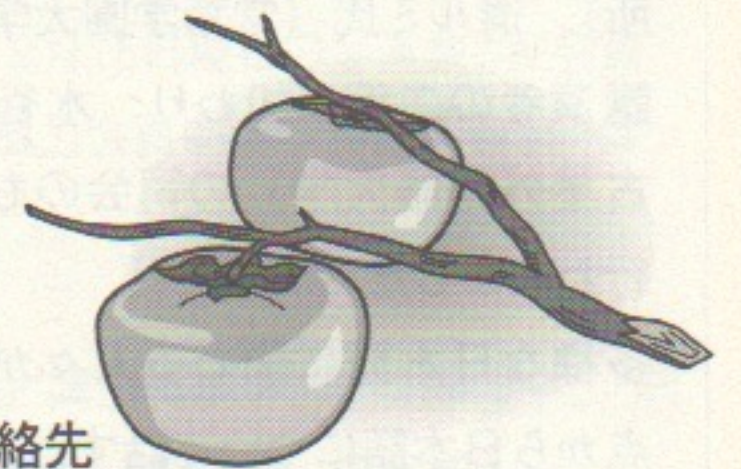
るが、それが同時に運営の難しさに直結しているのが実情である。学ぶ人の出入りの多さ、カリキュラムの一貫性と学ぶ人の関心との齟齬など、さまざまな問題を抱えつつ、日々、スタッフは工夫を凝らして学習支援にあたっている。とくにいまは自前のテキストづくりを目指している。

季節毎の交流イベントや行事も実施している。広報としては、隔月にOCNet通信を発行、また、インターネットホームページも開設し、適切な情報の提供（日本語・英語）を目指している。

特別企画としては、コンピュータ教室、英語、ウルドゥー語の外国語教室なども以前から実施している。

これからは互いの違いを知り、それを楽しむ関係を築く、同化ではなく、適応への支援が狙いになるだろうし、地域の中での共生の可能性を深めて行くのが課題と思われる。

OCNetはボランティアスタッフだけからなっているだけに、各ボランティアの自主性、自発性にまつことが多い。スタッフ一人ひとりがどれだけ自己管理できるか、そこに運営の鍵がある。それぞれにスキルを有すること、継続的に参加できること、さらにはバランス感覚のあることも望まれるので、これからはボランティア活動のコーディネーション、マネージメントに心を砕きつつ、ボランティアの養成・研修も進めていくことで、上記の課題を少しでも実現して行きたい。



●問合せ先・連絡先

OCNet 鈴木昭彦

TEL/FAX: 03-3730-0556

メールアドレス: ocnet@syd.odn.ne.jp

ご存知ですか？

都電に乗って 名所旧跡めぐりは いかがですか



都内で唯一の都電は早稲田・三ノ輪橋間21.2 km・停留所30を走る都電荒川線です。

新宿区、豊島区、北区、荒川区をつなぎ、地域の方々の便利で手軽な足となっています。

1日約6万2千人の人が利用しているそうです。大塚～三ノ輪橋の利用者が比較的多く感じます。

1両のチンチン電車は家並みの間を縫って走り、そこからの景色はまた格別で楽しめます。

路線に沿った土地は江戸以来庶民に親しまれ、庶民信仰の場や名所・行楽地として多くの公園・庭園・霊園、記念館、神社・仏閣、旧跡、遊園地・スポーツ施設などがあります。(東京都交通局のホームページから拾うと45カ所)

さあ都電に乗って出掛けよう。都電1日乗車券(400円)を乗車時に買うと当日は何処でも乗り降り自由です。

でも実際はどこかに焦点を当てて散策や見学をするのをおすすめします。

●早稲田・面影橋付近

(芭蕉庵・新江戸川公園・甘泉園・早稲田大学演劇博物館・東京染めものがたり博物館・神田川沿・山吹の里の碑)

●雑司ヶ谷・鬼子母神付近

(雑司ヶ谷霊園、鬼子母神堂、雑司ヶ谷宣教師館)

●飛鳥山・王子付近

(飛鳥山公園・紙の博物館・音無親水公園、名主の滝・旧古河庭園)

●新庚申塚・庚申塚付近

(染井霊園、とげ抜き地藏・地藏通り商店街)

●荒川2丁目・三ノ輪橋付近

(荒川公園・荒川自然公園・荒川水辺・天王公園・千住大橋を渡り奥の細道矢立初の碑)

沿線にはまだまだ神社・仏閣・霊園などを巡るルートがあります。

それぞれは東京の大都会を忘れさせてくれ、また地域の特色をじっくりと味わえる場所です。

早稲田・面影橋、飛鳥・王子をはじめ沿線では桜の季節、ソメイヨシノが咲き誇り、大勢の見物客で賑わっています。

芭蕉ゆかりの地が都電の両終点、早稲田(芭蕉庵)、三ノ輪橋(奥の細道矢立初の碑)にあるのも何かの縁でしょうか。

案内書、地図を広げて歩き、次の目的地には都電でと同行する仲間と話しながらコースを決めたら良いでしょう。

とても一日であちらこちらを巡ることは出来ません、ゆっくり周辺の景色を楽しみながら歩くと街角で思わぬ発見があるかもしれません。

東京都交通局ホームページ
(<http://www.kotsu.metro.tokyo.jp/>)

信州のこと——外国人学習支援——

長野県日本語ネットワーク

代表 ^{すのはら} 春原 直美

〒385-0022 佐久市岩村田396番地 TEL/FAX : 0267-68-0154

E-mail : yuuyuu@janis.or.jp

6月に^{すのはら}春原さんにお話を伺う機会があり、今回ZOOM IN に寄稿をお願いしました。

長野という広大な地域独特のネットワークの活動に工夫を凝らしていらっしゃいます。

1 | 長野県内の 外国籍県民

1) 現状

長野県には120の市町村がありますが、外国籍の方が1人もいない市町村はありません。外国人登録者数(H13.12月末)は「42,648人」で、県民約50人に1人が外国籍という割合です。国別では「ブラジル、中国、フィリピン、韓国・朝鮮、タイ」の順に多数となっています。

全国的に見た長野県の現状

外国人登録者数……………	第12位
県人口に占める登録者の割合……………	第9位
ブラジル人登録者数……………	第3位
外国人登録者数に占めるブラジル人の割合……………	第3位

2) 最近気になっていること

学齢期にある外国籍児童・生徒2,300人のうち570人(24.6%)が未就学の状態にあり、さらにその64.1%(370人)がブラジル国籍です。(県内のポルトガル語によるブラジル人学校は10校)

3) 長野県行政の取り組み

長野県では「外国籍県民と共生する県づくり」を目指し、いくつかの支援施策を進めています。例えば前記の問題に対する支援策としては、「①教育体験」「②日本語学習・就学支援」「③就学援助」の三つのプログラムを柱に取り組んでいます。

2 | 長野県内の日本語教室 学習支援ボランティア事情

1) 県内の日本語教室

日本語教室が長野県内にどのくらいあるか? 正確に把握できていません。

2000年の調査では80教室がリストに載りました。80という数は他県と比べて多いかもしれませんが、それは山国信州という地理的制約(交通事情が良くないなど)とスタッフの独立心が、多くの教室を発生させているのではないかと考えます。

BULLETIN BOARD

学習者募集

日本語学習会・さくら会では外国人のための秋期・日本語教室を開きます。さくら会は1983年に発足した日本語のボランティアグループで



す。外国の方々を対象に日本語教室をひらき、親切にまた熱心に教えております。

◆開講日：10月4日(金)

◆クラス・曜日・会場

初級1 (火・金) リーブラ4F
(港区立男女平等参画センター)
初級2 (火・金) 三田福社会館
中級1 (金) 三田図書館

中級2 (金) 三田福社会館
上級 (金) 三田図書館

◆場所

港区田町駅付近

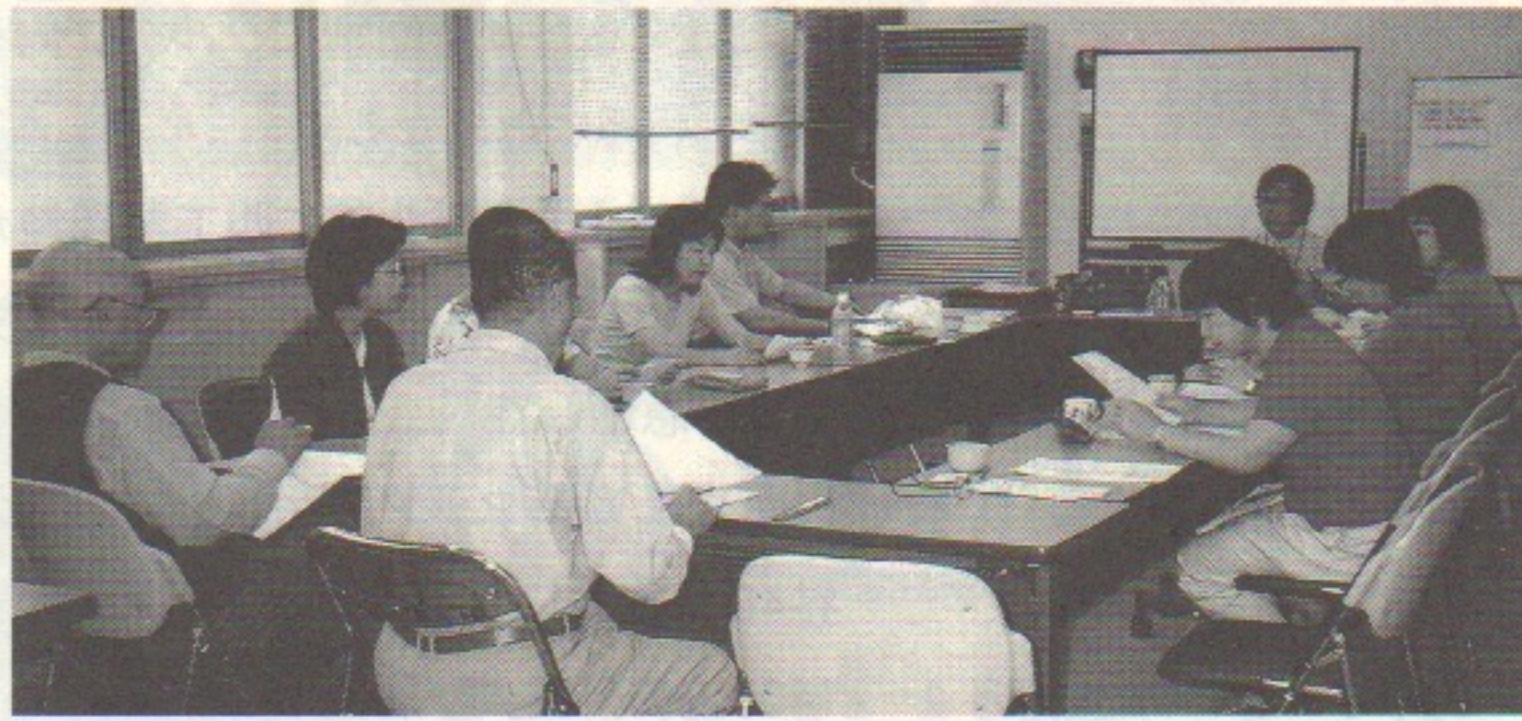
◆問い合わせ先

◎山崎 TEL/FAX : 03-3418-6886

◎木村 TEL/FAX : 03-3456-2104

◎さくら会

e-mail : sakurakai@par.odn.ne.jp



教室のタイプは「交流主体」「憩い・ふれあい型」「日本語能力試験合格を目指す」「それぞれのミックス型」などがあり、大人数で組織的に行われている教室からプライベートまでさまざまです。「学習者のニーズ・在住目的」「スタッフの思い」「地域性」などが絡み合い、教室の個性が出ているのだと思います。学ぶ場所、選べる教室が地域にたくさんあれば良いと思います。

2)信州日本語教室フォーラム

県内各地域で日本語学習支援をしている皆さんが集まり、毎年秋に「信州日本語教室フォーラム」を開催しています。本年は第7回目を波田町（松本市の隣）にて開催予定で、現在実行委員会が準備を進めています。

3)長野県日本語ネットワーク（略称：NNN）

前述のフォーラムは年に一度のイベントとして日本語関係者の間では定着しつつありますが、年1回で時間も短いので、内容的にあれもこれもできませんし、じっくりと話し合うこともできません。そんな事情から99年秋、学習者と学習支援者の日々の繋がりを持つことを目的に「長野県日本語ネットワーク」の設立に至りました。NNNは教室間のネットワークではなく、日本語に関心を持つ方々がゆるやかな繋がりを持つものです。

「情報を共有」し、学習支援をする私たち自身が「資質向上する」ことを目指しています。

2002年8月16日現在の状況

*個人会員：84名

*賛助会員：8団体

*情報交換団体

県国際課、県生活文化課、県教職員組合、秋田県日本語ネット、山形日本語ネット、福島県三春町日本語教室、新潟ヤポニカ、北陸地区日本語ネット、東京日本語ネット、目黒区・くれよん、東海日本語ネット、中国帰国者定住センター、他

いろいろな情報の他に多くの依頼も入ってきます。一人だけ、自分たちだけではたいしたことはできません。学習支援をする皆さんはそれぞれ得意とする分野を持ち、教室によって背景や活動方針に個性があります。また外国籍県民の支援者・団体もさまざまです。この違いや個性を生かしながら手を繋ぎ合い、役割り分担すればとても良い支援ができるのではないのでしょうか。

NNNはそんな方々の繋ぎ屋になることを使命と考えています。

ご意見ご提案をいただけると幸いです。

すみだにほんごボランティア21の夜クラスでは、常時ボランティアを募集しています。

◆活動場所

すみだボランティアセンター
（東武曳舟駅下車徒歩3分）

◆活動日時

毎週水曜日夜7時から9時まで
*条件は<ほぼ毎週来られる方>ということのみです。

*くわしくは、以下のサイトをごらんください。

<http://www.infoperience.com/sumida21>

◆連絡先

sumida21@infoperience.com

掲載記事を募集します。

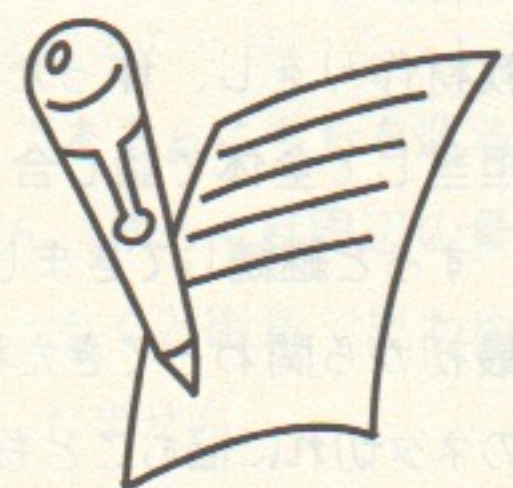
学習者・ボランティアの募集、イベント開催などの情報を本欄に掲載します。記事をお待ちしています。

◆原稿締切

ニュースレターは奇数月に発行します。原稿は前月の10日までにお寄せ下さい。

◆原稿送り先

メールまたはFAXでTNVN事務局
（ニュースレター編集担当宛）



生きた学習とは 翼の会 (夜の部)

飛田 一郎 (羽村市)

AさんとBさん、Cさんは新しい外国人入会者がいるので、三人でお願いしてよろしいですか。

毎週一回コーディネーターのマッチングによって教室が始まる。

マンツーマン方式が原則ではあるが、ボランティア・スタッフと学習者が同数になる事は少ない。

したがってこの流動化の対応策として、出来るだけ語圏別にグループ化し学習を行うことになる。

羽村市は市の西北部に西工業団地があり、90年度の入管法改正で外国人労働者が急増した。

南米・東南アジア系が多く、現在世界40ヶ国人口比率2.2パーセントの約1400人の外国人が居住している。

当時市内に居住する外国籍市民に生活をしていく上でのベーシックな日本語を学習支援することで始まった日本語ボランティア翼の会も現在では昼の部・

れるようになった。

彼達は在日三年間に日本語能力試験の二・三級の資格をとって帰りたいという強い希望もあり、教室内の学習ニーズも多様化している。

漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字で構成されている日本語は必ずしも彼らにとってやさしいとは思えないが、日本で生活するためには少しでも日本語が上達したいという真摯な態度にスタッフも何とか応えなければと共に努力しているのが現状です。

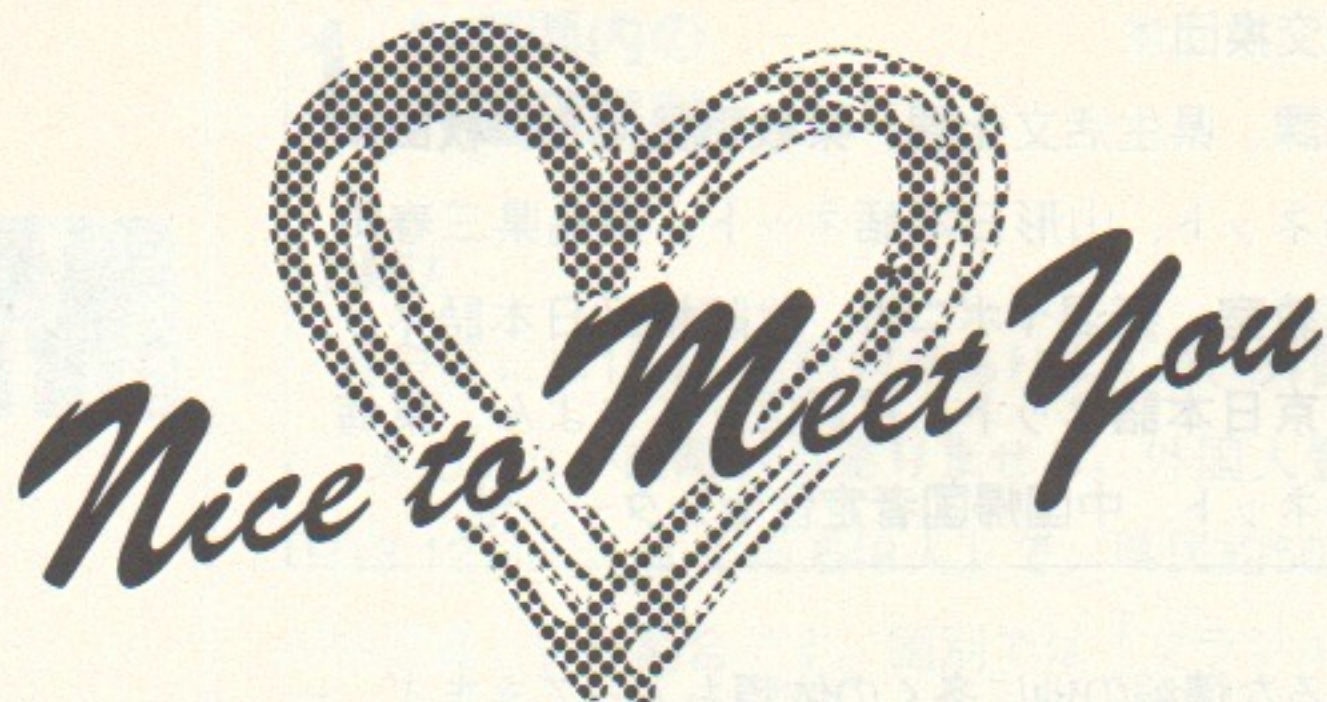
七月末の第27回羽村夏祭りには翼の会の外国人学習者やボランティア・スタッフが共にサンバ踊りに参加した。

また祭り会場には模擬店を出店して、学習者・スタッフ一緒に販売を行った。

多くの人々とふれあい、コミュニケーションを理解する、これこそ生きた体験学習ではなからうか。

今後も学習以外の多くのイベントに参加することこそ、異文化共生社会に近づく機会でもあると思うのである。

会員団体紹介



夜の部さらには学習者のニーズによって羽村日本語学習会など底辺を広げ活動している。

またここ数年来教室にはアジアの企業研修生なども多く見ら

10年目を迎えて 日本語サロン

永井 芳子 (北区)

東京日本語ボランティアネットワークが発足した年の7月、日本語サロンもスタートし、みんなに支えられて10年目を迎えました。

試行錯誤しながら、自分たちですべて教材作りをし、作ったボランティアが担当して全体で話し合うという形式は、ずっと継続してきました。

最初から関わってきた私などは、教材のネタ切れに悩むこともしばしばですが、若いボランティアが最近では牽引車の役割を担ってくれることが多くなり、うれしい思いとともに、未来への明る

さを予感させてくれます。

北区の国際協力ボランティアに登録した人たちが作った日本語サロンは、会話の習得と国際交流を目的とし、教室以外でも日本文化と学習者の国々の文化を共有できるように、年間行事として、茶道・お花見・花火見物・世界の料理の紹介・青年の家などを利用した一泊研修旅行・クリスマスコンサートなど、大勢の人たちの意見を取り入れて、多分野にわたる語り合い、学び合いの場を設けて、相互理解を深めてきました。

2年前、区の文化施設が有料化されたため、全員での話し合い

の結果、教室使用料と教材のコピー代として、1回100円を学習者とボランティアの参加者全員から徴収することに決まり、新しい参加者にも理解を得て協力してもらっています。

アジアを中心に多国籍の学習者をいかに定着させていくか、教材作りの工夫など、課題も多くありますが、継続することの重要性も再認識しています。



学習者の声

地球クラブ

鄭穎 (ジョンイヨン) 中国
中央公園文化センターで

私は家族滞在のビザで日本に来ました。以前日本に来たことがあります。日本語も少し勉強したことがあります。でもその日本語は全く浅い知識でした。

日本人の会話が全然分かりません。自分が話したいことも話せません。聾啞者に似ています。この苦痛は日本語で表現出来ません。

日本に来て間もなく子供の幼稚園で日本人と知り合いました。平井さんという人です。彼女との簡単な会話の中で、「私は日本語を勉強したい」と言いました。彼女は私を連れて中央公園文化センターに来ました。このようにして私は「地球クラブ」の一員になりました。そこで河田先生、鈴木先生、山本先生を知りました。私は鈴木先生と一緒に勉強するようにしてもらいました。鈴木先生は中国語が分かるので、私のグループは全部中国人です。毎回勉強の時、私達は先生を囲ん

で座り、まるで一つの大家族のようです。私達は教科書も課題も違います。でも先生が優しいし、豊富な知識があるし、中国語が上手なので磁石のように引き寄せられます。だから雨の日も風の日も私は必ず行きます。

先生は中国語がとても上手で、私達に中国語で文法を教えていただけますので、良く分かります。でも私達と会話する時は日本語で話し、私達にも日本語を使うよう要求します。しかし、私達の日本語の限界から、前半は日本語で、後半は中国語になることもあります。すると先生は私達にそれを日本語で言いなさい」と言います。

今、日本語がちょっと分かるようになりました。そして簡単なことは話せるようになりました。私は今、鈴木先生はじめ「地球クラブ」の先生方や仲間達に心から本当に感謝しています。ありがとうございます。

私は、「にほんごの会」で3年間ぐらい日本語を勉強しています。保育園や学校のお知らせを読んで、わからないところを教えてください。それと日本語能力試験の2級の勉強もしています。

私はオーストリアのウィーンから来ました。初めてこの教室に来た時は、2才の子ども「カレン」をつれて来ました。ときどき、カレンがあきて泣いたりしましたが、がんばって毎週勉強を続けました。

今、カレンは、保育園に行っていますが、あの時のことはなつかしい思い出です。

一昨年秋、八王子市のスピーチ大会にも

出ました。

いろいろな国の人が出て、みんなのスピーチは上手でとても面白かったです。

私はとても緊張しましたが、良い経験になりました。その時も、カレンは人見知りをするので、私といっしょに、ステージにあがり、私のスピーチの間、抱っこしていました。ハッピー賞をもらったのも、カレンのおかげかもしれません。

日本語に少し自信を持てるようになったのも、スピーチ大会のおかげです。

「にほんごの会」に入ってとても楽しくて役に立っています。

学習者の声

八王子にほんごの会

倉光ゲアトラウド / オーストリア
「にほんごの会」で

ボランティアの声

八王子にほんごの会

齊藤 広子
倉光さん

ゲアトラウドさんは、通称ギャーティさんと、呼ばれています。珍しいお名前ですが、お母様と同じ名前だそうです。ウィーンからのさわやかな風のようなすてきな方です。

かれこれ3年間も担当しています。私がこの教室に来て初めて担当した学習者の方です。

2才の可愛いカレンちゃんと雨の日も風の日も、自転車に乗って通って来ました。大きなカッパを着て、ママの自転車にチョコと座っていたのが印象的でした。とても頑張りやさんで、カレンちゃんが高熱を出した

時以外は休まずに勉強を続けました。

去年から、カレンちゃんを、保育園に預けて、ギャーティさんはドイツ語や英会話を教えに出かけるようになり、大変多忙な生活になりました。でも、日本語の勉強は続けています。

残念なことに、この8月末、ご主人の仕事のために、チェコのプラハに6ヶ月滞在することになりました。また、お会いできる日を楽しみに待っています。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックスNO.4

TEL: 03-3235-1171
(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX: 03-3235-0050

URL: http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/

MAIL ID: tnvn@t3.rim.or.jp

●事務局は金曜日に活動しています。

◆日時: 毎週金曜日

第1,第3,第5金曜日 午後2時~4時

第2,第4金曜日 午後2時~7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

●日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にベテランスタッフがおこたえします。電話またはE-mailでご確認の上、お気軽におこしください。

●日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してく

ださい。全4回(4ヶ月)

◆テーマ

(9月) 学習者はどのような人たちか?

(10月) 日本語学習をどのように支援するか?

(11月) 日本語ボランティアとは?

(12月) 日本語再発見

◆日時

9月13日(金) 午後2:00~4:00

9月27日(金) 午後6:00~8:00

10月11日(金) 午後2:00~4:00

10月25日(金) 午後6:00~8:00

11月8日(金) 午後2:00~4:00

11月22日(金) 午後6:00~8:00

12月13日(金) 午後2:00~4:00

12月27日(金) 午後6:00~8:00

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

飯田橋セントラルプラザ10階会議室

(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費/1回600円

(TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしください。

●TNVNへの入会を希望する方は

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)
<入会手続>申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費/正会員: 年会費3,000円

協力会員: 年会費2,000円

賛助会員: 年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク

(通信欄に「年会費」と記入)

●連絡先の変更等は、郵便かFAXで

団体の代表・連絡先(TNVNからの郵便物の宛先)・住所など

の変更および退会

は、事務局まで郵便

やFAXまたはE-mail

でお知らせ下さい。



**ホームステイ
あれこれ**



ホームステイといえは、すぐに、外国への短期留学を思いうかべる人が多いのではないのでしょうか。また、日本に定住する外国の人たちは、もっと「普段着」のままの日本人と身近に付き合いたい、と思っているにちがいありません。しかし、閉鎖的な日本社会では、その機会がまったく少ないといえるでしょう。

そこで、定住外国人の家庭に日本人を招待するという、ワン・デイ・ホームステイを考え、実践している人たちがいます。グループWAで日本語ボランティア

をされている辛 南妃さんと辛口の評論で知られる妹の辛 淑玉さんのお二人です。

この企画には、日本にいながら他国の文化や習慣を知り、体験学習するとともに、外国の人びとと心をふれあい、視野を広げることができる、という国際交流パーティーやイベントなどでは味わえない「醍醐味」があります。日本語ボランティアの各グループでも、一度は検討され、実行してみる価値がありそうです。

(S.K)

SPECIAL THANKS

★OCNet 鈴木昭彦様

から快く執筆いただきました。

★長野県日本語ネットワーク春原直美様

から快く執筆いただきました。

新入会員のご紹介

★正会員: 日本語交流クラブ

★協力委員: 大嶋 秀子、柳井 智恵子

*2002年8月15日現在の会員数: 正会員62団体、協力会員93名、賛助会員3団体

●編集/岡田美奈子、大久保澄子、梶村勝利、木村茂、床呂英一、林川玲子、山本敬子、上野悦子

●レイアウト/鶴田環恵